

GREEN ENERGY

「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク(GEN) 事務局 編

トピック:

- 特集: GENへの熱いメッセージ
- 自然エネルギー促進議員連盟ついに発足!
- 総合エネルギー調査会新エネルギー部会レポート

特集: GENの活動への熱いメッセージ!

浅岡美恵さん

(気候ネットワーク代表)

自然エネルギーの普及策を市民が企画立案し、政府や議会、産業界を動かして制度化しようというGENの活動が、持続可能な社会を築いていく市民の活動のモデルとなっていくことを期待しています。

温暖化の影響は深刻で対策が急がれています。しかし、二酸化炭素の排出が少ないことで、原子力発電がかかえる様々な問題が免罪されるわけではありません。私たちは子供たちのために地球環境を守っていかうとしているのであり、GENの活動がエネルギーをどのようににつくり出し、どのように消費していくのかを選択する時代を支える人々を育てる場でもあって欲しいと思っています。



宮崎駿さんからのメッセージ

椎名誠さん(作家)

自然からエネルギーを活用するということは、人間の未来挑戦の、新しく大きくてすばらしいテーマだと思います。世界の趨勢からいっても私たちはもっと早く真剣に取り組んでいく必要があると前々から思っていました。「自然エネルギー促進法」市民立法に力を込めてエールを送ります。

島田雅彦さん(作家)

普通に考えれば化石燃料というのは燃え尽きてしまうわけですから、風は止むことはありませんし、ただです。昔の船は風を帆に受けて地球を航行していたわけですし、さらに粉をひくにしても、日常の中に風力というものが取りこまれてきたわけです。これを発電にまわさない手はないと思います。

資本主義というのは、今生き

ているものが良ければそれでいいというところがありますけれども、自分たちが死んだ後の、自分たちの子孫、まだ生まれていない人のために何ができるか考える想像力が絶対必要になってくると思います。その上で、今ある有限なものを燃やし尽くすよりは、永遠に吹き続けるであろう風に未来を託すことは意義のあることだと思います(談)。

内橋克人さん(評論家)

「自然エネルギー促進法」は、単にエネルギー問題にとどまらず、社会、経済、政治、あるいは市民社会のあり方のすべてに及ぶ重要なもので、まさに「日本社会改革法」と呼ぶべきだ。

コンテンツ:

GENへのメッセージ	1
自然エネルギー促進議員連盟ついに発足!	2
総合エネルギー調査会 新エネルギー部会レポート	3
イベントレポート 緑の電力革命シンポジウム	4
インフォメーション 原子力発電と21世紀のエネルギー選択	4
アクション〜活動報告〜	4
自然エネルギー円卓会議	4

自然エネルギー促進議員連盟が発足！

午後３時半、衆議院第２議員会館の第１会議室には、衆参から国会議員および代理人が９５名、市民団体・地方自治体・事業者が３５名がつめかけ、熱気が漂っていた。河野太郎衆議院議員（自民党）の開会の挨拶の後、各党からの代表が「自然エネルギー促進法」にかかる想いを述べた。加藤修一参議院議員（公明党）による議員連盟立ち上げまでの経過報告に続き、規約が満場一致で採択された。役員の選出では会長に愛知和男衆議院議員（自民党）、事務局長に加藤議員が選出された。愛知会長は「エネルギー政策にはもっと政治が取り組み、政治の判断で国の方針を決めるべきだ」と問題意識を述べた。

「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク代表：飯田哲也がNGO側を代表し、「昨年の秋から小規模な勉強会を始め、ここまできたことに深い感慨を覚える。作るか作らないかではなく、どのような法案をつくるかという段階に今日をもって入ってきた。EU諸国では政治が自然エネルギー普及の高い政策目

標を掲げ、それを実現し、さらに推進しようとしている。日本もようやくそのような方向性になってきた。国民みんなが期待している法案なので、ぜひとも頑張っていたきたい。今後とも我々は全面的に支援していきたい」と、激励と全面的な協力を確約した。

各党代表者の挨拶

自民党：真鍋賢二参議院議員

「自然の恵みを受けたエネルギーを確保していくことが大切だ」

自由党：笹山登生衆議院議員

「地域が自前のエネルギーで内発的發展をとげたいという気持ちに応え、位置付けていきたい」

公明党：近江巳記夫衆議院議員

「自然エネルギーを促進するために、税制を始めとしてバックアップしていきたい」

民主党：細川律夫衆議院議員

「この法案を制定することは国民の皆さんと一緒に環境問題を解決していく意義のある活動だ」

社民党：福島瑞穂参議院議員

「2010年の新エネルギーを少なくとも10%にするため、促進する法制度を国会で作りたい」



【写真】設立総会で挨拶する議員連盟会長・愛知和男代議士

自然エネルギー促進議員連盟が十一月二十四日、正式に発足した。自民党の愛知和男代議士が会長に就任、準備会の段階では議員は二〇名だったが、共産党を除く各党から衆参あわせて二〇〇名以上が集う超党派の議員連盟となった。「自然エネルギー促進法」の成立を目指し、通常国会に提案する方針。

議員連盟の近況

昨年に引き続き、参議院法制局と法案の擦り合わせをおこない、議員連盟としての準備を進めている。それに並行して、通常国会のスタートと同時に議員連盟勉強会を始め、提案に備える。学識有識者やNGO関係者を交え、意見を交換する。

また、議員連盟参加議員は発足後も増え続け、現在約250名にも及んでいる。



昨年九月の北海道苫前町への視察風景

総合エネルギー調査会新エネルギー部会始動！

昨年12月17日、総合エネルギー調査会の新エネルギー部会が開催された。いよいよ、わたしたちGENの進める「自然エネルギー促進法」の目指す自然エネルギーの買い取りも含めて、自然エネルギーに関する新しい支援策のあり方が政府の本陣で始められることになった。

まず、驚いたのは、傍聴者の席が全席指定（少数の予備席あり）だったことだ。会場の入り口に座席表が置かれており、傍聴者はそれに従って着席した。所属その他がすべて明記されているため、どんなセクターがこの審議会に興味を抱いているのかははっきり分かる。委員随行も合わせると、約70名の政府・マスコミ以外の傍聴者の約半分以上が電力業界からだった。その他、自治体や大手建設会社などから参加していたが、おもしろかったのは、日本原電からの参加など、原子力業界の関心が高そうだったことである。

審議会委員では、GEN代表の飯田哲也氏が委員に選ばれ、エネルギー関係の審議会としては異例のNGOからの参加となった。自然エネルギー推進派の企業や団体からも数名が選ば

新エネルギー部会のスケジュール(案)

- 一月二七日－第二回会合
- 二月－第三回会合
- 三月－第四回会合
- 四月－第五回会合
- 五月－第六回会合
- 六月－第七回会合・・・中間報告取りまとめ案→パブリック・コメント募集
- 八月－第八回会合・・・パブリック・コメントを踏まえた中間取りまとめ

備考：スケジュールは、審議の状況に応じて変更の可能性あり。

れているが、やはり、36名の審議会委員の中では少数派に過ぎない。一方で、電力会社を中心としたエネルギー産業界や、今までも産業界を代弁する意見を繰り広げてきた学者達など、審議会委員としてお馴染みの名前が多数並んでいる。全体の印象として、旧態依然とした審議会メンバーという感は拭えない。

そもそも、「新エネルギー」という名称そのものが非常に曖昧な概念をふくんでおり、わたしたちの考えている再生可能エネルギー、自然エネルギーとはまったく別物である。「新エネルギー」には、自然エネルギー以外にゴミ発電やコジェネレーションなども含まれる反面で、今後普及が期待されるバイオマスについては、ゴミ発電と明確な線引きが無くきちんとした定義すらされていない。自然エネルギー導入支援に関しての今回の部会の一番の争点は、自然エネルギーは安定しないエネルギーで信頼できないというものだが、代表的なのが、都立大の横山氏の述べた「大学で電力システムを教えているが、再生可能エネルギーが電力システムに入ってきたときの系統運用の難しさを指摘したい。導入可能な量しか入れられない。太陽や風力などのようなお日様任せ風任せではなく、コジェネや廃棄物に興味がある。」という意見だろう。電力会社や電力労組などは、直接「自然エネルギー促進法」に言及し、「これ以上電力会社の負担が増えるような制度の導入は辞めて欲しい」と述べた。

一回目のまとめとしては、バイオマスについては再定義がなされることになり、系統連携については別途小委員会を部会の下に設けて審議を行うこととされた。次回の部会開催は1月27日である。今後4回にわたって新エネルギーの経済性、海外での動向などについて審議し、6月には中間報告のとりまとめが行われる。わずか4回の部会開催で、新エネルギーの定義も含め、自然エネルギーの真の普及に役立つ議論が行えるとは到底思えない。しかし、後ろ向きの審議が行われる可能性大とはいえ、政府が審議会を設置せざるを得ない状況に到ったのは、一つの成果でもある。このチャンスをなんとか前進の機会にするためにも、審議会の議論の行方を追うと共に、より一層のわたしたちの働きかけが必要とされている。

文責 GEN副代表 大林ミカ

第二回緑の電力革命シンポジウム

10月31日、アメリカ・スウェーデン・デンマーク・オーストラリアから、それぞれグリーン電力制度を実施している機関の担当者を招待し、各国の最新情報を交換した。また、国内からは北海道と九州から市民からの取り組みを報告していただいた。コーディネーターとして参加したGEN代表の飯田哲也は『各国の様々な取り組みから、日本が目指すべき「グリーン電力制度」の構想がだいぶ見えてきた』と収穫を述べた。資料のお問い合わせは「自然エネルギー推進市民フォーラム」(03-3834-2427)まで。



「自然エネルギー促進法」推進ネットワーク (GEN) 事務局 編
東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3階

電話 03 (3834) 2428 Fax 00 (3834) 2406
Email gen@jca.apc.org
http://www.jca.apc.org/~gen/(更新しました)
HP上でオンラインでもご覧になれます

シンポジウムインフォメーション

「原子力発電と21世紀のエネルギー選択」

1. 住田健二さんの基調報告
(原子力安全委員会委員長代理)
2. パネル討論 コーディネーター 鈴木篤之
パネリスト 内山洋司・住田健二
飯田哲也・浅岡美恵

日時: 1月25日午後1時～5時
場所: 有楽町マリオン11F
有楽町朝日ホール: 03-3284-0131

皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい

自然エネルギー円卓会議

GENは、現在まで行ってきた活動を継続しつつ、より一層法案を練り、議員立法に備えます。今年の一月からは自然エネルギー円卓会議を開催する予定です。

各方面から好評を得た北海道苫前町における顔の見える意見交換会の形を、定期的に開催していくことで、自然エネルギーを促進する枠組の必要性の合意形成を進めていきます。第一回として、国会議員・省庁・電力事業者・NGOを招き、一月二七日議員会館にて行います。

編	欧州の調査から帰り、3ヶ月ぶりに事務局に復帰。状況が大きく変わっていますが、とりあえず「浦島太郎」を脱すべく頑張ります(賢)。
集	何をやってるんだと言われないように、GENの活動を定期的に報告していきたいです(祐)。
後	最近GENを手伝うことになりました、ミレニアム新人です。よろしくお願いします(美)。
記	

Action～GEN活動報告～

- 10/22 環境庁の自然エネルギー促進勉強会に参加
- 10/28 愛媛県バイオマスシンポジウムにて講演
- 11/04 GEN運営委員会
- 11/11 日本生活協同組合連合会 消費者大会で講演
- 11/17 林野庁買い取り法勉強会
- 11/18 日本風力エネルギー協会主催の風力エネルギー利用シンポジウムで依頼講演
- 11/24 自然エネルギー促進議員連盟設立総会および環境庁勉強会に出席
- 12/06 中村敦夫政治スクール(ポリティカ) エネルギー政策について講演
- 12/11,12 COP3二周年記念「市民が進める温暖化防止99」(気候ネットワーク主催)分科会「市民がつくる自然エネルギー戦略」で講演
- 12/15 第一回新エネルギー部会開催
- 12/21 GEN運営委員会
- 01/13 GEN運営委員会・法制化勉強会